



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# 株式会社テイクアンドギヴ・ニーズ 2020 年

5

## ウェディング業界について

日本における2019年のウェディング関連業界の市場規模は約2.4兆円となっており、そのうち、挙式・披露宴の市場規模が1.4兆円を占めている（矢野経済研究所）。残りの約1兆円はブライダル関連費用であり、ブライダルジュエリー、新婚旅行、結納家具、マッチングサービスなどにかかる費用である。日本においては、少子高齢化や女性の独立、未婚率の上昇といった結婚に関する価値観の変化等の結果、2001年をピークに婚姻件数が減少している。2019年の婚姻件数は約60万組であり、前年比0.1%のプラスであったが、今後は減少していくと予想されている（図表1参照）。その一方で、一組あたりの挙式披露宴平均単価は年々増加傾向にあったが、2012年をピークに減少に転じている（図表2、3参照）。この背景には、少人数での会食やリゾート婚など価格訴求型の形態や、挙式を行わない「ナシ婚」などが近年増加していることが挙げられる。また、この業界はコロナウイルスの影響を大きく受けており、2020年3月～7月の取扱件数は、前年同期比でマイナス81.8%と大きく落ち込んでいる。一般的に結婚式は下見から挙式までの時間が長いことから、感染が収束したとしても需要が戻るまでに時間がかかることが想定される。さらに、いわゆる「密」を避ける傾向はしばらく続くことが予想されるため、今後披露宴は少人数でおこなわれる可能性が高い。どちらにしても、自社で式場を保有するブライダル企業にとって、しばらくは厳しい状況が続くだろう。

ウェディング業界内においては市場規模の縮小が予想される中で、近年は他業界からの参入も増加しており、大手企業だけではなく中小企業も数多く乱立している。また、披露宴の形態にもスマ婚、フォト婚、リゾート婚、オリジナルウェディング、レストランウェディング、ホテルウェディングなど様々な形態があり、今後ウェディング業界での競争はさらに激化するものと考えられる。

挙式・披露宴の実施会場は、「ホテル」「一般の結婚式場」「ハウスウェディング」の3タイプで全

本ケースは、慶應義塾大学ビジネス・スクール准教授 村上裕太郎監修のもと、足立康子、岩城康博、小田英毅、及び蔵重浩輔（すべてM36期生）が公表資料および株式会社テイクアンドギヴ・ニーズ人事部長 工代将章氏及び青山迎賓館支配人 濱中輝雄氏への取材に基づき、クラス討議の資料として作成した。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は<http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複製、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

Copyright © 村上裕太郎、足立康子、岩城康博、小田英毅、蔵重浩輔（2021年3月作成）